

事例紹介大学等のプログラム概要

【北海道地区】

1. 北見工業大学

プログラムの名称	夢を育むe-学生支援 - I Tシステムと個別担任制の連携による多様な学生へのきめ細かな学生支援
(プログラムの概要) 本学では、少子化や大学進学率の上昇に伴って多様な学生が入学してくる中で、学生が快適な学生生活を送り、社会での活躍にそれぞれ大きな『夢』を持って卒業していくための学生支援を目指している。そのために、これまでの学年担任制に加えて個別担任制を全学で実施し、教員は1学年あたり5人程度の学生を担当することにより、迅速できめ細かな学生支援を行う。 また、学生の資質・能力・知識の多様化に対応するため、個々の学生の修学・生活状況等多元的な情報を集約した、電子ポートフォリオを学生支援に携わる教職員で共有し、修学の悩みや心の問題などに対して早期に適切な助言や指導を行う。 さらに、ピア・サポート及びSNS（電子的な学生交流の場）を立ち上げ、学生同士の相談や交流・情報交換を活発化させ、学生の自主的活動を高めることで、学生による学生生活の良い環境づくりを支援する。	

2. 東北公益文科大学

プログラムの名称	インクルージョン社会をめざした大学づくり - 特別なニーズをもつ学生への「共育」支援を通して
(プログラムの概要) 本プログラムは、特別なニーズをもつ学生（障害をもつ学生、心理的な問題を抱える学生等）への支援を通して、学生の人間的成長を促進することを目的とする。主な取組として、支援体制を充実強化するために学生共育支援室を設置し、支援実践のデータベース化を図る。支援室では、特に支援が困難な発達障害をもつ学生への個別支援プログラムの開発・実施を行い、個別のニーズに基づいた支援モデルを構築する。また、障害への理解促進のための啓発活動やピア・サポートによる支援実践により、学生及び教職員がともに学び成長できる「共育」環境の整備を図る。さらに、学生の参画を中心とした地域社会との協働事業等を展開し、市民のインクルージョン社会に対する理解と活動を促進する。これらは、学生を「共生社会」を担う市民として育成することにつながり、延いては、すべての人が排除されることなく幸せに生きられるインクルージョン社会の実現に貢献する。	

3. 北海道自動車短期大学

プログラムの名称	基礎学力習熟のための支援システムの構築 - 自動車整備士資格の取得支援システムを例として
(プログラムの概要) 本学では2級自動車整備士の養成教育を行っている。基礎学力が劣る学生には個人指導に近い教育を行って、教員の努力を傾注し、卒業直後に受験する二級自動車整備士の国家試験の高い合格率を維持してきた。しかし今後、能力・意欲の低い学生が増え続けることが予想され、教員の努力だけでは指導が立ち行かなくなる危険性がある。本プログラムでは、我々の指導ノウハウとe-learningシステムとを結びつけ、教員の仕事の一部をコンピュータシステムが肩代わりし、現行同様あるいはそれ以上の効果をもつ資格取得支援システムの構築を目指す。現行のCAI（Computer aided Instruction）の機能を強化し、学生の解答傾向の分析から、個々の学生の不得意とする問題の把握をし、きめ細かく弱点を分析する。その結果を教員へフィードバックして、入学時からの教育方法の工夫に反映させる。	